

2024年5月21日（火）

老球の細道799号

リベン爺！孫の運動会

会津バスケットボール協会 室井 富仁

自分の子どもの運動会は一度も見たことがなかったのに、人生の黄昏の時期になった今、その罪滅ぼしか孫の運動会に熱くなっている。先週の土曜日、前日の肌寒い天気とは裏腹に絶好の快晴下で孫の小学校で運動会が開催された。

今年の運動会は今年の運動会リレーにおける孫息子のリベンジがかかっていた。アウトコースからスタートして、ルールがわからず最後までアウトコースを走り続け、最下位で次の走者へバトンタッチすることになってしまった。走ることには自信を持っていた孫はビリだったことで相当自尊心を傷つけ、帰宅後悔しさが爆発し泣きじゃくっていた。

あれから1年。孫の屈辱は爺の屈辱。今年の屈辱を果たすために新年度を迎えてから、何かと日常生活の中で走らせることに気を配った。天気の良い日はあいづ体育館の隣の運動公園に連れて行き、そこで鬼ごっこをさせたり、縄跳びをさせたりして走るトレーニングを遊びの中で行わせた。親馬鹿ならず爺様馬鹿に徹した。リベン爺である。

運動会当日の朝、孫たちは緊張のせい、朝食が食べれず、ちょっとしたことで姉弟喧嘩をはじめて親たちにストレスを与えていた。高校生に話すメンタルコントロールなど低学年の小学生には通用せず、私はただひたすら「勝ったらご褒美を買ってやるぞ」とアメでつるしか方法が浮かばなかった。

運動会のプログラムを見て、孫が出場する種目の時間帯に合わせて小学校へ向かった。孫に私の居場所がわかるように赤のジャージでビシッと決めて行った（と、自分だけが思っている）。孫娘と孫息子たちは偶然にも同じ「赤組」だったので私も赤。思わずほくそ笑む。

すでに運動会はスタートしており、プログラム通りにスムーズに進行していた。毎日、小学校の裏の田んぼ道をウォーキングコースにしている私は、その都度体育授業で運動会の練習を遠くから“星飛雄馬の姉”（見物）をしていた。本番ではうまく行動できるのだろうかと思いつつ内心心配しながら……。ところが、本番での運動会運営は素晴らしいものだった。長い間高校生の学校行事を運営した経験のある私としては、小学生をこれだけ規律正しく行動させる小学校の先生方の指導力に脱帽した。そしてその指導にきちんと応える子どもたちの規律正しい行動力に改めて驚嘆させられた。

バスケットボールの指導においても、小学生の指導が最も難しい。最近ミニバスチームに加入した孫たちに付き添いながら練習を見学させてもらっているが、指導者や保護者たちの我慢強く、優しく、粘り強く接する姿に頭が下がる思いである。昔、誰かに言われたことがあるが、「小学生の指導ができて初めて一人前の指導者になれる」と。

運動会はプログラム予定時間より15分も早く終了した。孫たちは目標であった徒競走、リレーでいずれも今年の記録を上回ることができた。しかし、残念ながらその日の夜のミニバス練習は疲労で欠席。爺の心、孫知らず。爺はそれでも明日のために荒野を目指す。